

ウォーキングを愉快にしてくれる小さな生き物さんたち

(年取るということ日誌から)

CL教育研究会 遠間美保子 amhotm@gmail.com <http://docl.jp>



2011/6/21

直径3mmほどの穴が無数に開いている金属フェンスの穴の一つから4枚の新葉の付いた小枝が飛び出している。枝の細さでその穴はぎりぎり葉をすぼめて引っ込めることもできない。どうやって穴から出たのかそのプロセスを想像すると、事実さまのいたずらというか、ユーモラスな自然の生りあいに噴出してしまふ。

6/23

夏のウォーキングには鍔広帽子とスポーツ用の偏光サングラスが欠かせない。サングラスは玉虫色に光って、すれ違う子どもがじっと見るほど派手なつくりだ。道の向こうから職人さんらしき若者が力強く歩いてくる。すそが大きく広がって足首で細まった作業用ズボンにペンキが転々とついているから、左官やさんか塗料職人さんかもしれない。その男性はシルバーに光るサングラスをかけている。

すれ違いざま、サングラスじゃ負けないぞといい年をして、力じゃたちうちできない若者に粋がってみたくなった。

6/24

玄関ドアの前で白髪を短く刈った、横から見てS字に腰と膝が曲がったおじいさんが、さわやかな白地にコバルト色の柄のアロハを着て、細身の白いスパッツのようなもの（股引かもしれない）をはいて、腕を前後に回して朝の体操をしている。放射能の中でもその光景は生き生きとしてなにか有り難い。

6/28

猛暑日になりそうな曇りの朝、太陽が雲から顔を出し、ちりちりと照りはじめた。古木の檜の日陰に入り、(陰を作ってくれてありがとう)と心でお礼をしたら(そっちは有り難いだろうが、こちとら暑いってもんじゃない)応えるように樹の声がした。そうか、背が高く遮るものがないからまともに強い陽の光を全身に浴びているのだ。こちらの都合でしていただいている事実「アリガト」だけでは不十分。相手の状況、立場の事実を知ってこそ意味ある「ありがとう」になる。檜の木さん、だいじなことを教えてくれてありがとうさん。

7/16

猛暑のこの時期に道路工事をあちこちでして、作業している人はたいへんだなと思ながらも道を遠回りしなければならず文句の一つも言いたいほど。京成線踏切前で、工事の作業着にヘルメットをつけた男性が、遮断機が上がるのを待ちながら、そばで工事している別の作業員に「工事で行けないから真間のほうに回ったら、そこも工事してやがってサー」とぼやいていた。工事担当者自身でも工事で通行を妨げられるのは頭にくることを知っておかしかった。

猫三題

7/28

よその家のガレージで白と薄茶の三毛猫が、クリーム色のミニカーの屋根の上で四足を投げ出して横になり、その家からもれてくるピアノの練習曲に耳を傾けている。ときどき頭を上を持ち上げて、窓の方を見る。まるで弾き間違った箇所気づいたかのように。猫は曲ではなく、音しか判別しないに違いないが、本猫（人）に聞いて確かめたわけではないので、ひょっとしてメロデーを解するのかもしれない。

8/1

ウォーキングの目的地、法華経寺聖教典前で、石段上段の手すりにネコが座って涼んでいた。人が近づくと立ち上がり、聖教典の石柵の中に入ってしまった。体操を始めると、なんとネコが柵から顔と体半分を覗かせて、じっとこちらの動きを見ている。「この人間はなにけったいなことをやってるんだ」と言わんばかりに。一瞬、体を動かしながら、見られて恥かしい気分が湧いた。

8/2

猛暑で湿度が高く、気分がだらけて足の運びに注意が滞ったとき、ふと何かに呼びとめられて見ると、道路右の一軒家駐車場にグレーと赤茶の三毛猫が前足をピシッと揃えて立て、顔を前方にまっすぐ向け、視線を前にきょろきょろせず、きちっと座っている。まるでバッキンガム宮殿に直立不動で立つ近衛兵のよう。その凛々しい姿のおかげで心がピシッとして、体と足がはりきって動き出した。事実さまは本当に常に、どうするかを発信してくれている。

8/17


涼しそうなサマーハットを被った、柄もの半そでシャツにピシッと折り目の入ったベージュのスラックスを粋に着こなした年配(70歳前後)の男性が杖をついて、パーキンソン症なのかヨチヨチ歩きで散歩されている。追い越すと呼び止められ「すみません。ここをまっすぐ行くと富貴島小学校でしょうか?」と尋ねられる。「はい、この突き当たりの建物がそうです」足を止めて答えると「校庭は右か左、どちらでしょう?」。答えると丁寧に礼が返ってきた。「お気をつけて」と先に進む。目の前に見える距離で、徒歩で2、3分の場所だが、この方は30分かかるに違いない。小学校の校庭で歩く訓練をされるのか、あるいはお孫さんのサッカー練習を見に行かれるのか、どんな身体の状態でも目的をもって、必要な行動をされているすてきな男性に脱帽。

8/18

午後4時この暑い最中に犬が遠吠えしている。正しくはイタリアのカンツラーネのように声を張り上げている。15分前にパトカーに出くわしたが、とっくに走り去った。住宅街で車が通る音ぐらしか聞こえない。その犬が飼われている大きな家の前を通ると、中央玄関前に立派な木造の犬小屋があって、どうもその中で声を出しているようだが、姿は見えない。すると、二階の開いた窓から横笛の音が聞こえてくる。犬は飼い主と協奏していたのだと知る。

8/19

10日間ほど猛暑のせいかウォーキング中、立ち話をする人にも出くわさなかった。ところが、今日は一転して、昼から雨天と冷気が北からやってくるという天気予報。朝9時だが、すでに風が強く吹いて、空は黒雲で覆われてきた。かんかん照りの高温とは逆の天気の外に出ない法はない。15分も歩くと、80代と50歳そこそこの女性が門口で小さな奇声と笑い声でなにやら楽しそうにおしゃべりしている。私立中高校のグラウンドではテニス部と野球部が元気に掛け声を上げて部活動に張り切っている。この久しぶりの天気の好転をみな謳歌しているよう。さらに風が強くなり、暗くなって今にも待望の雨が落ちてきそうだ。事実が起す変化に歓喜と感謝。(千葉県市川市CLインストラクター)

 [目次へ戻る](#)